

第46回ジュニアバドミントン大会ルール（ダブルス編）

I 試合のルール（ラリーポイント制）

- 1 ラリーに勝った方が得点するラリーポイント制とする。（バレーボールと同じ）

ここで言うラリーに勝つということは、相手側がフォルトをするか、シャトルが相手のコート内に落ちてインプレーでなくなった場合をいう。

※ サーブをした方がラリーに負けたときは、サービスオーバーとなり、レシーブ側が1点を得る。
- 2 サービスをするときのコートとサービスをする人の順序
 - (1) サービスをする側のスコアが 0か偶数のときは右サービスコートから、奇数のときは左からサービスする。
 - (2) サービスをした方が得点したときは、サービスをした人が左右のサービスコートを替えてサービスする。
 - (3) サーブする人の順序は
 - ① ゲームの最初のサービスをする人
 - ② 最初にレシーブした人のパートナー
 - ③ 最初にサービスした人のパートナー
 - ④ 最初にレシーブした人
 - ⑤ 最初にサービスした人（最初に戻る）

※ サービス権が戻ってきたときのサービスをする人は、前回と異なるプレーヤーとなる。
- 3 インターバル

すべてのゲームで、一方のサイドが8点になったとき60秒を超えないインターバルを認める。（8点でチェンジエンド）
- 4 試合中のルール
 - (1) サービスをするとき
 - ・ 床から115cm（ひじの位置）より下で打つ
 - ・ 足を床につけて打つ
 - ・ 線を踏んだり、またいだりしない
 - (2) 打ち合いの最中
 - ・ ネットにさわらない。オーバーネットしない
 - ・ ラケット以外でシャトルにさわらない。1回で打ち返す。
 - (3) その他
 - ・ スポーツマンシップを持つ。相手にやじを飛ばしたり威嚇したりしない。
- 5 試合方式と点数
 - (1) 試合は予選リーグと決勝トーナメントで行う。

（ただし、低学年は決勝トーナメントを行わず、順位を決定する）

 - ① 各試合は15点1ゲームで行う。
 - ② 15点先取（14オール時の延長なし）
 - (2) 決勝トーナメントからは2ゲーム先取で勝敗を決める。

II 試合の進め方

1 選手集合・整列・あいさつ

コート内でネットをはさんで行う。

2 試合

(1) あいさつ ネットをはさんであいさつ・握手をする。

(2) トス (じゃんけん)

勝った方が次のどちらかを選び、負けた方が残りを選ぶ (本大会特別ルール)

・ サービス権・・・最初にサービスをするか、しないか

・ コート選び・・・最初にどちらのコートをとるか

(3) サービス権を取った方は、最初にサービスをする人、コートを選んだ方は最初にレシーブする人を主審に報告する

(4) 最初にサービスをする人、レシーブする人がコートの右側に入り、主審の「ラブオールプレイ」の合図で試合を始める。

(5) その後は、サービスの順番により試合を進める。

(6) 最初に8点になった時点で、チェンジエンドをする (コートチェンジ)。インターバルとして60秒以内に行う。

(7) 15点になった時点で、主審が「ゲームオーバー」を宣言するので、試合終了となる。選手はネット前まで来てあいさつ・握手を行う。

3 試合終了時

選手全員ネット前に整列して、あいさつを行う。

勝利チームの監督は、スコア用紙の勝利者サイン欄にチーム名でサインを行う。

III 作戦

- ・ 相手のいないところへシャトルを打つ。重要な戦法、相手を動かせばチャンスあり
- ・ 強い球を打ちこむ
相手を打ち負かすことができれば最高。しかし、打球が弱いと反撃される
- ・ フォーメーションを考える
前後に並ぶ：攻撃に有利、守備は弱い
左右に並ぶ：守備に有利、攻撃は弱い

【バドミントンの歴史】

1873年イギリスの貴族ビューフォード公が領地のバドミントン荘でパーティーを開いた。その時インド帰りの陸軍将校がインドのプーナ・ゲームを紹介したのがそのもの始まり。1887年頃にほぼ現在の形になった。日本では大正～昭和に横浜(YMCA)で始められ、戦後発展した。